

2016 年度後期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント
—全学共通教育—

共通教育研究センター長 相澤 正彦

全学共通教育科目の前期開講科目のうち、アンケート対象科目は 201 科目であり、このうち 13 科目をのぞく 188 科目についてアンケートが実施されました（実施率 93.5%）。内訳は実施必須科目では 141 科目中、実施された科目は 139 科目（98.5%）、任意科目では 60 科目中、実施されたのは 49 科目でした（81.7%）。協力を頂いた学部生のみなさんは延べ 5,239 名にのぼりました。この場を借りて御礼申し上げます。またアンケートの実施に対し、貴重な授業時間を割いてご協力頂いた先生方にも深く感謝いたします。

周知のように個別科目の集計結果は Campus Square から自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。さて、授業の満足度を示す「総合的にこの授業を評価できる」の平均は、5 段階評価で 4.30 であり、大学全体 4.35 よりもやや下回りますが、4 学部と比較してちょうど平均ぐらいの水準にあるといえましょう。12 の項目の中で 11 項目が 4.0 以上の高い評価を得ています。

個別項目と「総合的にこの授業を評価できる」との相関で見ると、例年、相関係数がトップの位置にある「この分野の関心と学力が得られた」は 0.81 となり抜群の数値を示しています。これは前期アンケートと同値であり、4 学部の数値と比較して同等もしくはそれを上回り、各授業の充実度を示すものと言えます。またこのことは「授業への教員の熱意を感じた」が 0.66 という高い数値を示していることとも同調するものと思われ、教員のみなさんの不断のご努力によるものと、重ねて謝意を表する次第です。

さて全学共通教育科目においても、アクティブラーニングの促進を連年、奨励しておりますが、前年度後期には 4.0 に届かなかった 2 項目が、「教員は発言・議論等の授業参加を促した」の 3.64 と「授業中意欲的に取り組んだ」の 3.98 であり、努力課題でありましたが、今回は前者は 3.67、後者は 4.05 と少しの伸びを見せました。一方で、前年度後期は学生の「予習または復習をよくした」が 3.09 とここ数年を通じて低い数値を示していましたが、今回は 3.21 とやや上回ったことは少し明るい話題です。これは先生方の不断の努力が実を結んできたと同時に、学生側も自ら勉学に取り組むという意識が少しづつ高まっていることを示していると思います。喜ばしいことであり、是非この気運を持続させて行きたいと切に望んでいます。

スポーツ・ウェルネス実技科目については、「総合的にこの授業を評価できる」が前年度後期は 4.82 と連年と同じく極めて高い数値を示しておりましたが、今回は 4.88 と前年度後期を上まわりました。また「運動量は十分であった」の数値が前年度後期 4.78 に比べ今回は 4.79、「体の健康等を見直す機会になった」が前年度後期 4.72 に比べ今回は 4.80 と、いずれも前年度後期を上回る高い数値を維持しています。ここには学生におけるスポーツ・ウェルネス関係の関心の高まりと教員みなさんの熱意がうかがわれます。

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウェルネス科目、IT 科目、WRD 科目、データサイエンス科目という構成からなり、基本的な学問体系を学べるよう、また今日的な諸問題に取り組むことができる教養や知力、スキルを習得できるよう、多岐にわたる科目が配されています。このアンケートを通じ、今後も質の高い授業を学生のみなさんに提供していこうと考えています。